



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



近畿大会で仲間の応援を受ける北村さん

近畿大会での発表の様子



表彰状を手にする北村さん

**生まれ育ったまちを愛し
地域を盛り上げる元気人**

商工会青年部を対象とした主張発表大会で、素晴らしいスピーチを繰り広げ、輝かしい成績を収めた元気な男性を紹介します。

北村 げんき さん(29歳) 日高町 太田

商工会青年部主張発表大会 近畿大会で優良賞受賞

豊岡市商工会青年部の北村元気さんが、平成22年度商工会青年部主張発表大会の但馬大会、県大会でいずれも優勝し、近畿大会では見事、優良賞(3位)に輝きました。生まれ育った神鍋高原を約10年間離れ、国内外でさまざまな仕事を体験し、帰郷。商工会青年部の活動に参加して学んだことや、故郷を離れて改めて感じる故郷の良さなどを力強く訴えたことが奏功しました。

住み慣れた故郷を離れ 故郷の良さを再発見

北村さんは、自然豊かな神鍋高原で生まれ育ちました。16歳で故郷を離れ、単独で和歌山へ行き、パラグライダーのインストラクターのライセンスを取得しました。その後、海外へ渡り、アメリカ、ニュージーランドなどで暮らしました。帰国してからは、春・秋は長野で料理の勉強、冬は北海道でスキー・スノーボードのインストラクター、夏は富士山で登山ガイドを務めました。「いろんな場所でさまざまな経験をした。それが今の

私の力になっていきますね」と北村さんは話します。

約10年ぶりに帰郷した北村さんは、父親が経営するペンションで料理を担当しています。すぐに幼なじみから声が掛かり、青年部活動に参加しました。「離れて暮らしてみても、神鍋高原の良さを改めて実感した。でも、後継者も少なく、神鍋高原の良さも日々衰退し埋もれつつある」と北村さんは危惧します。その埋もれつつある地域資源を復活させ、さらに新しいものを作り出す必要性や、青年部活動に参加して学んだことを、大会では力強く訴えました。

地域資源を掘り起こし 新しいものを生み出す

大会当日は、近畿2府5県の代表各1人が、10分間の持ち時間をの中でそれぞれの主張を披露します。兵庫県代表の北村さんは、応援に駆け付けた市・県のマスコットキャラクターのコーちゃん、オーちゃん、玄さん、はばタンに囲まれ、元気に発表しました。「神鍋冬まつり」で青年部が



▲家業のペンション経営でも常に新しいことにチャレンジしている

取り組み披露した「豊岡井」も紹介。地元産こしひかり、カニタ、こんにゃく、ニジマス、ソバの実、地卵、高原野菜と、合併前1市5町の自慢食材を使用して作り出しました。「今ある地域資源をうまく使って新しいものを作る。そうして地域を盛り上げていきたいですね」と北村さんは意気込みます。「自分たちが心を開き、開かれた神鍋高原にしていきたい。山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定されたことが良いきっかけになるように、いろいろ考えていきたい」と夢は尽きません。「1人ではできなくても、仲間と力を合わせれば必ず実現できる。若い人たちに豊岡に帰ってきてほしい。一緒に地域を盛り上げよう」と熱いメッセージを送っていました。

広報マンがやってきた!

幼稚園編

11

小野幼稚園

(出石)

〈園児18人〉



豊かな自然と史跡に囲まれた小野幼稚園では、毎年、出石地域内のさまざまな幼稚園と交流しています。

11月2日、出石幼稚園との交流が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

いっぱい教えてあげるよ!

出石幼稚園の園児たちを乗せたバスが園に到着しました。すると、その到着を心待ちにしていた園児たちは、玄関に駆け出し、出石幼稚園の園児たちをお迎えします。「小野



幼稚園のことをいっぱい教えて

ください!

とお願いされた園

児たち。

出石幼稚園の園児

たちの手

をつない

で案内しました。

ここがすずし山!!



園の敷地内には、「すずし山」と呼ばれる

小高い丘があり、

園児たちの自慢

の場所です。

「一緒に滑ろ

う〜!」。

そこには、

とても大

きな「ジ

ャンボ滑

り台」が



あり、園児たちは次々とその滑り台に挑戦しました。



こんなの見つけたよ!

「すずし山」には、ドングリ

などの木

の実や、

バッタ、

カエルな

ど自然の魅

力がいっぱい。自分だけの宝物がたくさん見つかりました。



これからもみんな仲良し!!

「一緒に食

べよう〜!」と

声を掛け合いな

がら、園児

たちは「す

ずし山」で

お弁当を

食べまし

た。すっかり

仲良くなっ

た園児

たちは、

みんな素敵な笑顔ばかり…。

「いつまでも仲良しだね」。



笑顔の輪

音楽は世界の共通語

ハーモニカ同好会「赤とんぼ」(豊岡)

毎月第3木曜日、豊岡市民プラザからハーモニカの音色が響いてきます。

ハーモニカ同好会「赤とんぼ」の皆さん(22人)の練習風景がそこにありました。会員は、豊岡や城崎、日高、出石、養父市の方などさまざまです。

この同好会の活動は、ちょっとしたきっかけが始まりました。世話役の吉岡光義さん(京丹後市)は、退職後、ハーモニカを始めようと思立ち、自ら勉強しながら老人施設を訪問、ハーモニカ演奏をしていました。当初は3人で始めたこの同好会が新聞に掲載されたことで、問合せが殺到、現在の形ができました。

当時のことを吉岡さんは「老人施設の慰労にと考えていたが、新聞に載ったことで大所帯になって…」と笑います。会員増に伴い、練習場所を探していたときに市民プラザの存在を知り、以降、月1回の練習を続けています。

この同好会には「発表会に

たどりつこう」という一つの目標があり、今は「みんなと一緒に吹ける曲」(10曲程度)を練習中です。

ハーモニカの魅力は「値段も手ごろでポケットにも入る手軽な楽器だが奥が深い。吹くだけで世界でも通じる。まさに人生・旅の友」とのこと。

吉岡さんは「この会を山登りで例えるとベースキャンプ。実力に差があるので、個々で目標とする山に登ればよい」と言いながらも、会の次の展開を模索中です。



▲サロンコンサートでの様子